



部会の窓 第4回近世部会を開催しました

8月28日(土)第4回近世部会を開催しました。今回は、段組みや文字数などページの体裁について協議するとともに、各章の項目立てと委員からの進捗状況報告に基づいて、重複する分野や史料について確認が行われました。

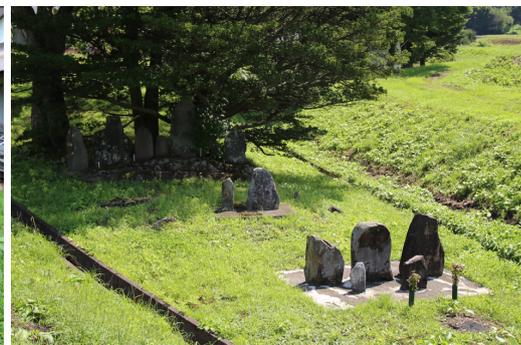
また、翌29日(日)は希望する委員により市内巡見が行われ、今回は主に小友・宮守方面で、七観音や宿場町の町並みを巡りました。



▲会議の様子



▲追分の碑と遠野街道



▲西風の石碑群



▲宮守観音

部会の窓 第4回中世・文献グループ会議を開催しました

9月3日(金)第4回中世・文献グループ会議を開催しました。前回は、資料編を一部カラーとすることや、DVDは付属させないことなどを申し合わせました。今回はページの段組みや文字数、全体構成について協議を行い、資料編の大まかな体裁が決定しました。

また、当日午前中は現在発掘中の^{みやしろよん}宮代Ⅳ遺跡の調査を行いました。宮代Ⅳ遺跡は平安時代の遺跡で、10世紀初頭の^{たてあな}竪穴住居跡や12世紀後半の^{きょうづか}経塚3基などが発見されています。経塚とは^{きょうづつ}経筒などに入れて埋めた塚のことで、今回は経筒を納めたとみられる壺や、その蓋に使われた青磁の碗が出土しました。12世紀の経塚を市内で検出したのは今回が初めてで、遠野が奥州藤原氏の影響下にあったことを示唆しており、遠野の中世史研究における重要な発見となりました。この成果は令和5年度発刊の資料編にも反映される予定です。



▲宮代Ⅳ遺跡の経塚遺構

▼遺跡北側から六角牛山を望む



市史編さん室では、さまざまな時代の資料や館跡を調査しています。
古文書や古写真をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。



暦 とおの
さいじき

お月見



旧暦8月15日

旧暦8月15日の夜に月を眺める月見の風習は、奈良～平安時代ごろに中国から伝わりました。この日の月は「中秋の名月」「十五夜」「芋名月」と呼ばれ、だんごや餅、ススキ、サトイモなどをお供えして月を眺めます。そのルーツは不明ですが、中国各地では月見の日にサトイモを食べることから、もとはサトイモの収穫祭であったという説があります。

平安時代の貴族たちは、「康保三年(966)八月十五夜、月の宴せさせ給はんとして、清涼殿の御前に皆方分ちて前栽植系させ給ふ」(『栄花物語』)といったように、月見の宴を催したり舟遊びをしたりして、池の水面や杯の酒に月が映るのを楽しみました。

また、旧暦9月13日の夜にも「十三夜」とか「後の月」と呼んで月見をします。ちょうど収穫期の大豆や栗を供えることから「栗名月」「豆名月」ともいいます。これは中国にはない日本独自のものです。ふたつの名月は「二夜の月」と呼ばれ、片方だけ見るのは「片見月」といって縁起が悪いとされました。

しかしなぜ十五夜ではなく、満月とはならない十三夜なのでしょう。これには様々な説が唱えられてきましたが、一説には宇多上皇(867-931)が「今夜明月無双」と言ったことから、十三夜の月を愛でるようになったといえます(『中右記』)。

一直栄様御代迄前々より御奉公人酒を飲候儀御構無し之候故、御徒大勢の中ニ酔狂の高声ニ度々御長屋を唱し候人有之由、義長様御政務以後酒御停止被仰付、御用酒の外懐中の酒入をも下御門にて堅通し不申候、然共御徒は御切符貳駄の小身にて御屋敷常勤の御奉公仕候故、御容赦の思召にも候哉、毎年春は花盛の比花見の酒宴一夜、秋は八月十五日夜月見の酒宴四ツ限御免被成慰申候、四ツ半過迄騒鎮不申候へば、御目付より制止の使を越申候、此例永不絶御代々両度の酒宴御免也、(後略)

『遠野古事記』(遠野学叢書第六巻)より抜粋

では、遠野の月見の様子を見てみましょう。江戸時代中期に宇夫方広隆によって書かれた『遠野古事記』によると、遠野の下級武士たちは普段酒を飲むことが許されませんでした。花見と月見の宴だけは酒を楽しむことが許されていました。ただし、四ツ半(秋分の頃は23時頃)まで騒いでいると、御目付(諸士の監察をする役職)から制止の使いが寄越された、と記されています。

昭和初期の遠野では、旧暦8月15日に「月見の節句」「お明月様」などといって月見をしました。庭や縁先に白を出してふせ、そこに箕をおいて餅、枝豆、大根、稲穂、ススキ、ハギ、果物などをのせて供えます。線香を供え、灯明を灯して拜む地域(旧土淵村)や、月見に供えたものは男性のみが食べる地域もありました(旧遠野町、旧青笹村など)。

今年の遠野の中秋の名月は、残念ながら雲がかかる「無月」となってしまいました。十三夜は10月18日ですので、晴れたらどうぞ空を見上げてみてください。

【参考】国立天文台ホームページ、『遠野学叢書第六巻 遠野古事記』2016、『遠野学叢書第九巻 郷土のすがた』2017ほか

10月18日の盛岡での月の出は16時07分、月の入りは翌19日の2時58分、月齢は11.7です。ちなみに満月(望)は20日の23時57分です。

